巻頭言

薬剤師と人間力
－人間力教育は組織に正の連鎖を齎す－

日本病院薬剤師会理事
前鳥取大学医学部附属病院
薬剤部長・教授
島田　美樹　Miki SHIMADA

入職面接で学生に「将来，どんな薬剤師になりたいですか?」と尋ねると「患者により添える薬剤師になりたいです。」という答えが返ってくる。

患者により添うために必要な力とは，一体何なのであろうか？　１つには，人としての経験値（例えば結婚，出産，子育て，大切な人との出会いや別れ，嬉しかったことや辛かった経験など）がある。しかし，これらは個人間で経験の回数，重さやその受け止め方に差が生じる。まずは，社会の一員（医療人）としての自覚をもち，自分の仕事に使命を感じ，独り立ちできている人間でなければ，人により添えないと考える。いわゆる「人間力」が必要となる。

人間力という言葉は，馴染みが薄いかもしれない。人間力とは，2003年４月に内閣府の人間力戦略研究会によって以下のように定義されている。「社会を構成し運営するとともに，自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」であり，「知的能力的要素」「社会・対人関係力的要素」「自己制御的要素」の３つで構成されている。「知的能力的要素」には，学校教育を通じて習得する「基礎学力」や「専門的知識・ノウハウ」，「論理的思考」，「創造力」などが含まれる。２つ目の「社会・対人関係力的要素」には，コミュニケーション能力，共感力，協力・チームワーク，リーダーシップなどが含まれる。３つ目の「自己制御的要素」には，倫理観と道徳性，問題解決力，ストレス管理能力，自己認識と成長意欲などが含まれる。

最近，某企業リーダーの「社員教育の６～７割は，人間力の教育だと思っています」という記事に目が行った。人間力とは，上述のように自分で考え，自分で選択し，自分で行動を起こして，自分で結果を受け取る力を意味する。なぜ，企業が人間力の教育に力を入れるのか？　ここまで読まれてきた多くの方は，その答えの察しがついたと思う。自立した人が多く集まる組織には活気がある。何故なら，自分の未来を自分で切り開けるという希望があるからである。受け身ではなく，能動的に行動するため，活気が出てくる。自分たちの組織を自分たちの手で良くしていこうとする意欲に溢れた組織こそ，大きく強く成長していけるからである。意欲に溢れた組織は魅力的であり，人を惹きつけるという正の連鎖が生じる。

人間力の３要素を我々の世代は，家庭教育や社会生活のなかで習得してきた。2008年１月より，小学校でのキャリア教育が開始となった。ここで使われている「キャリア」とは，生き方そのものである。このキャリア教育に人間力の教育が含まれており，中学校，高等学校での教育と続いていく。一方，大学での人間力の教育は平成の時代に入ってから働き方の多様化・流動化，高齢化や産業構造の変化など，時代の変化と要請に応えるため，2011年４月に施行された大学設置基準にキャリア教育として追加されてきたが，課題は山積みである。さらに，社会に出た後の教育体制は，どうなっているのか？　ここ２～３年，薬剤師の世界でもキャリア教育という言葉を聞くようになった。今後，若手からベテランに至るまで持続的な人間力教育は，意欲に溢れた魅力ある薬剤部を作り挙げていく根幹となると考える。